

ボランティアセンターだより



平成 23 年 10 月発行：江戸川区ボランティアセンター

利用時間：月～土曜 8時30分～17時15分（日曜、祝休日、年末年始は休み）
〒132-0031 江戸川区松島1-38-1 グリーンパレス1階
電話：03-5662-7671 FAX：03-3653-0740
E-mail：edo-vc@city.edogawa.tokyo.jp

※次号は平成 24 年 2 月発行です。

区民まつりに参加しました



10月9日（日）都立篠崎公園で第34回区民まつりが開催されました。今年はお天気に恵まれ、篠崎公園はまつりを楽しむ方々の笑顔でいっぱいでした。

ふれあい広場のボランティアコーナーでは、手話・点字の体験や動物風船づくりにたくさんの方が訪れ、食事の時間もままならないほど、対応するボランティアの皆さんは大忙しでした。



紙トンボ 200本は午前中になくなりました。
みんな大空へ飛んでくれたかな



350個用意したボランティアセンターの風船もあっという間になくなり、動物風船を待つ親子の列は終日続きました。今年アンパンマンも作ってみました。

あれっ？ ここ
どうするんだっけ？



熱心に点字の体験をする区民の方々



ここをこうして…

ボランティア募集情報!

江戸川区内の福祉施設では年間通じてボランティアさんを募集しています。
今回は「障害のある方と交流したり、サポートする活動」の募集情報をご紹介します。

活動内容は利用者との交流、散歩のつきそいやお話相手、作業の手伝いなどです。

詳しくはそれぞれの施設の担当までお問い合わせください。



中央地区

施設名	所在地	電話	担当者
一之江あゆみの園	西一之江3-12-13	5661-5171	中島
障害者生きがいの場	上-色2-6-10 上-色コミュニティセンター	3674-1381	柏木
精神障害者地域共同作業所 悠歩舎	西一之江4-1-6 啓成ハイツ松江	3654-3557	ボランティア担当
地域生活支援センターえどがわ	中央4-20-5	5678-8607	ボランティア担当
知的障害者通所施設 区立みんなの家	本一色3-38-3	5662-3411	ボランティア担当
江戸川かもめ第三作業所アクティブ船堀	松江5-1-3 第2松田ビル2階	3680-5290	石野田

平井・小松川地区

施設名	所在地	電話	担当者
精神障害者地域共同作業所 悠遊舎えどがわ	平井1-9-6 大徳ビル1階	5626-2998	ボランティア担当

葛西・船堀地区

施設名	所在地	電話	担当者
区立障害者支援ハウス	中葛西2-11-8	5667-1333	竹沢
知的障害者通所施設 区立えがおの家	中葛西5-10-5	3680-3116	ボランティア担当
知的障害者通所複合施設 区立希望の家	江戸川5-32-6	3680-1532	ボランティア担当
就労継続B型 江戸川かもめ第一事業所	中葛西2-8-1	3804-1728	茂木
江戸川かもめ第二事業所	中葛西2-8-21	5658-4865	峯垣外・土井谷
NPO法人ぱお パオパオくらぶ	船堀1-1 船堀一丁目団地2号棟1階	3689-4642	

小岩地区

施設名	所在地	電話	担当者
江戸川区立 福祉作業所	西小岩3-25-15	3657-1971	ボランティア担当
NPO法人ワークあけぼの会小岩作業所	南小岩3-9-6 テクノプラザ1階	3671-8828	ボランティア担当
NPO法人ワークあけぼの会小岩第二作業所	西小岩2-15-18 ロイヤルwako	3650-8829	ボランティア担当

東部地区

施設名	所在地	電話	担当者
身体障害者授産施設 もぐらの家	春江町3-21-6	3679-0110	石井
精神障害者地域共同作業所 元明館	南篠崎町2-34-6-102	3678-1814	ボランティア担当
福祉施設 CCM作業所	南篠崎町3-24-7	5666-9777	松永

鹿骨地区

施設名	所在地	電話	担当者
NPO法人 自立支援センターむく	鹿骨5-29-2	5243-0235	俵山
知的障害者通所施設 区立虹の家	西篠崎2-18-22	3676-3391	ボランティア担当
江戸川かもめ第三事業所	上篠崎2-4-21	5666-3301	アクティブ船堀 矢田

ボランティアセンターのホームページ検索は → [「ボランティアセンター江戸川区ホームページ」](#)

出前ボランティア

ボランティアセンターでは、江戸川区福祉ボランティア団体協議会と協力して「出前！ボランティア体験」事業を実施しています。この事業は子どもたちが、学校に出向いた障害のある方とボランティアさんのお話を聞いたり車椅子・ガイドヘルプ（視覚障害体験）・点字・手話の体験をするプログラムです。

こうした体験を通じて、身の回りで自分にできることに気づき、人を思いやる心をはぐくんでほしいと願っています。

活動中の障害者の方から皆さんに伝えたいこと!!

（車イス使用 Uさん）

一番伝えたいことは身体に障害がある人間が決して「特別」ではないということ。「特別」とは、可哀相、同情、手伝ってあげるといように、上から見下ろされること。

また、奉仕の精神やボランティアさせてもらいますと、下から見上げられるような扱われ方も違和感があります。単純に生徒たちには、地域の中で自分たちと一緒に身体に障害があり、生活している人たちがいるんだと知ってもらうことが最初の一步です。

皆と同じような楽しみも持ち、それなりに幸せに過ごしている。ただ、人よりできないこと、時間がかかることがあって、それをほんの少しできる人にお手伝いしてもらいたい。

そして、生徒たちが体験をきっかけに、障害を持っている人を当たり前にならなくしてくれたら、本当にうれしいです。



（聴覚障害のあるUさん）

盲学校とろう学校が同じ校舎だったころ、目の不自由な盲学校の先生の手を私の肩に置いて、通学路を一緒に通った思い出があります。

私にとって普通の小中学校は未知の世界で、出前ボラでは戸惑いました。しかし、「ありのままの私を見てもらい、知ってもらえば良い。」とわかりました。世の中には障害者に対する差別や偏見が残っています。聴覚障害者でも運転免許を取得したり、医師や弁護士にもなれます。

皆と同じ可能性があることを理解して欲しいと思います。

（視覚障害のあるTさん）

講話をさせていただき、10年ほどになります。私は中途失明者で、一時は生きる意味を失い苦しみ悩みましたが、子育てが私の使命と思い立ち直りました。いじめや挫折から子どもたちが無駄に命をなくしてはいけません。

見えなくても楽しく生きている私を見ていただき、困難に負けずに強く生きてほしい。

相手の立場を考えられるなら、思いやりの心が芽生えると思っています。私自身もそうでありたいという願いを込めて講話させていただいています。



出前ボランティア体験リーダーより一言



出前ボランティア体験は平成11年から始まりました。障害者の方の参加がなかったら、こんなに続かなかったと思います。障害者が自分の言葉（手話も）で子どもたちに話しかける。

それによって、障害者が身近にいて「かわいそうだけ」でなく、できないこともあるけれど自分たちと同じように生活し、手伝えることもあると気付いてくれる。

子どもたちの「自分達の心にあるやさしさ」を引き出してくれる活動だと思っています。

話をしてくれる障害者の方々に感謝！感謝！の気持ちです。

← 現在開催中の講座から… →



点字講座 (9月2日～ 10回)

5月の初級講座は点字の基礎を学びました。
9月からはパソコンによる点字講座を開講しています。
この講座は初級を終了した方を対象としたもので、点字のスキルアップを目指したものです。
現在は初級から合わせると15回以上が終了し、受講生の皆さんがお互いに教え合いながら、なごやかな雰囲気勉強をしています。
(講座で学んだことをボランティア活動に活かしていただければ嬉しいです。 担当M)

音訳 (9月8日～ 10回)

音訳は朗読と異なり、視覚障害者のために書かれた文字や表や写真などを音に直すことです。講師は明るく朗らかな方で教室には笑い声が絶えません。
講座は実践的な授業で、声に出して読むことが多く、読み方は講師が指導してくれますので、自分が気付かないことを知ることができます。
講座終了後は、音訳ボランティアのグループに参加し活動していただくことができます。
(あなたも音訳ボランティアとして活動してみませんか? お待ちしています。 担当K)

手話 (9月17日～土曜コース・28日～水曜コース 各10回)

初心者のための手話講座は、年3回実施しています。
関心のある多くの方に参加していただけるよう、9月は水曜と土曜の2講座を開催しました。
講座の初日、参加される皆さんは一樣に緊張されていますが、終了時には和やかで笑顔が見られるようになります。
こんな時、講師や助手の方々の方々の隠れた努力の一面を見たようで、頭が下がる思いです。
(少しでも興味のある方、ぜひ参加してください。 担当E)

夏のボランティア「体験者の感想」より

7月16日～8月31日の間、172の方が54カ所で夏のボランティア体験をしました。
たくさんのボランティアを受け入れてくださった施設・ボランティア団体の方々のおかげです。ご協力ありがとうございました。
今年参加された方の感想文から一部抜粋してご紹介します。

・保育園 (中学2年 女子)

初日は避難訓練で園児を移動させたり、水遊びをした後の着替えなどをしました。
2日目は初日より園児と会話ができました。最終日はお昼寝の時、多くの子を寝かしつけることができるようになりました。何よりうれしかったのは「明日も来て」と言ってくれた事です。
手を振って帰る時に、来年もできることならこの園でボランティアができればいいなと思いました。

・熟年者福祉施設 (中学3年 男子)

最初はやる事がわからず、とても不安でした。特に車イスなどは、物にぶついたり、人にぶつかったりしないか、とても緊張しました。家でもした事が無いお茶出しでは、一部の人にはとろみをつけて出すことなど、全く知りませんでした。
ドライヤーなども技術が必要なの分かりました。
高齢者の方々から自分のような者にも「ありがとう。」と言葉をかけていただいたのが、何よりも嬉しかったです。今年のお盆には、鹿児島島の祖父母の所に行くので、自分のお茶出しの技術を披露して見せたいと思います。

